

高等
科用

普通讀本

高橋熊太郎編

一編下

T1A3

10

Ta33

圖書 和圖書 遡



a 1 3 8 0 3 2 8 7 4 3 a

福岡教育大学蔵書

高等科用普通讀本一編下目次

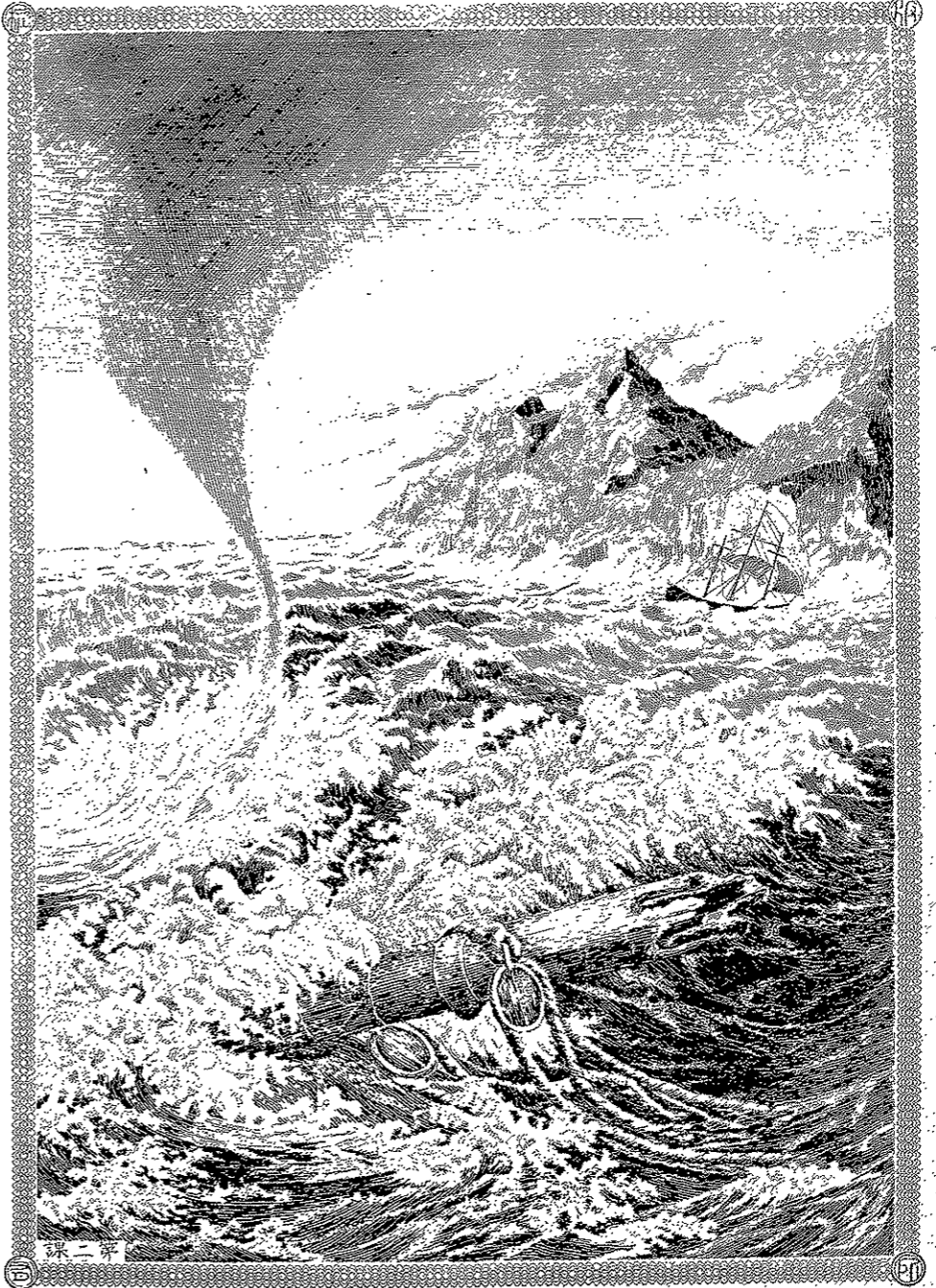
第九課	第八課	第七課	第六課	第五課	第四課	第三課	第二課	第一課
京都	課業問合七ノ手紙	海狸	馬援ノ訓誡	植物ノ話其二葉	物價ノ高下	平重盛	風ノ種類	勞逸ノ時限
二十丁	十八丁	十五丁	十四丁	十二丁	九丁	五丁	三丁	一丁

高等科用普通讀本

一編下目次

東京堂發行

明治二十九年九月二十六日
文部省檢定濟



第十課	獅子ノ話	二十二丁
第十一課	身體ノ機關 <small>其二筋肉及ヒ皮膚</small>	二十五丁
第十二課	立志ノ方	二十七丁
第十三課	清正ノ虎獵	二十九丁
第十四課	横濱	三十丁
第十五課	空氣ノ事	三十一丁
第十六課	海濱ノ話	三十三丁
第十七課	レギユラスノ義烈	三十六丁

高等科用 普通讀本一編下目次 終

高等科用 普通讀本一編下

高橋熊太郎 編

第一課 勞逸ノ時限

西人ノ美俗ト稱スベキ者ハ、善ク勤メ善ク遊ブノ風ナリ。其業ニ就クヤ、必ズ時刻ヲ定メ、時至レバ乃チ場ニ上ボリ、一分時ヲモ誤ラズ。操業ノ間、拮据龜勉、目明ニ耳聰ニ、手足敏捷、動作活潑、吹煙ヲ禁ジ、談笑ヲ制シ、意ヲ事業ニ一ニシ、心ヲ他事ニ及ボサズ。而シテ時儀錯々、停業ノ時刻ヲ報ズレバ、即チ几ヲ蓋ヒ具ヲ收メテ、直チニ家ニ還リ、

衣ヲ更メテ雅服ニ換ヘ、或ハ車ヲ驅リ、或ハ馬ニ騎リ、或ハ魚ヲ釣リ、或ハ舟ヲ浮ベ、或ハ雪ヲ衝テ氷上ニ走リ、或ハ球ヲ擲テ戶外ニ戲レ、或ハ兄弟姉妹ヲ携ヘテ園圃ニ逍遙シ、花ヲ觀、鳥ヲ聽キ、或ハ知己ヲ訪ヒ、手ヲ執リ情ヲ話シ、興味未ダ盡キザルモ、時至レバ還テ晚餐ニ就クヲ常トス。是ノ如ク出入勞逸、共ニ時刻ヲ定メテ苟モセズ、其業ヲ執ルニ當テハ、專心一意、規律ノ嚴ナルコト、恰モ勇士ノ戰陣ニ向フガ如ク、其閑退放課ノ時ニ至テハ、燕樂談笑遊戲ニ荒メルコト、狂蝶ノ

花ニ戲ムルニ似タリ。一屈一伸一張一弛、能ク其宜キニ適セリ。故ニ精神常ニ活潑、氣風終始爽快ニシテ、事ヲ爲スニ澁滯スルコトナシ。但其身ノ貴賤ト、其業ノ繁閑トニ由テ、休息ノ時間ニ長短ノ差アルモ、昇降時間ノ嚴ナルト、規程約束ノ正キトハ、渾テ相異ナルコトナシ。

今我國人ノ事ヲ執ルヤ、時限ヲ踐マズ、勤ムベキニ勤メズ、憩フベキニ憩ハズ、優遊不斷ナル朝野皆然リ。夫ノ木工泥工ヲ見ヨ、每朝遲々トシテ工場ニ臨ミ、烟ヲ吹き茶ヲ斃リ、既ニ業ニ就クモ動

作遲鈍、勞スルガ如ク逸スルガ如ク、動モスレバ人ノ目ヲ掠メテ勞ヲ竊ミ、更ニ休息幾回ナルヲ知ラズ。試ミニ日ヲ刻シテ五人ニ物ヲ託スルモ、期ニ至テ能ク成ルモノ稀ナリ。大抵延期數次ニ及ブヲ常トス。爲メニ其用ヲ缺キ、害ヲ蒙ルコト幾多ゾ。

又吉凶吊賀ノ筵ニ、必ズ其期ニ會スル者ナキガ如シ。畢竟誤錯ヲ以テ、此世ヲ成セルガ如シ。學生案ニ對シ書ヲ繕クモ、心ハ率子他方ニ在リ、見レドモ見エズ、聞ケドモ聞エズ、其光陰多クハ夢寐

ノ間ニ失ヒ、休息ノ時間モ運動シテ身ヲ養フヲ知ラズ、室内ニ懶臥シテ徒ニ眠ヲ貪ルガ如キハ、飲食ヲ恣ニシテ口舌ノ欲ヲ厭カシメ、攝生ノ法ヲ省ミザルモノナリ。之ヲ彼ノ善ク勤メ善ク遊ブノ風俗ニ比スルニ、其差豈ニ霄壤ノミナランヤ。

第二課 風ノ種類

春半駘蕩ノ日ニ、花下薰ヲ送り、盛夏溽熱ノ夕ニ、樓上衿ヲ洗フガ如キハ、風ノ快適ナルモノナリ。汚穢ヲ去テ清淨ノ氣ヲ送り、新陳代謝シテ、人ヲ

シテ健康ナラシメ、或ハ帆檣ヲ驅テ船舶ヲ遠洋ニ航セシメ、又ハ風車ヲ轉ジテ作業ノ動力ヲ助クルヨリ、夫ノ雲雨ヲ吹キ送リテ萬物ヲ滋育シ、温冷交、致シテ氣候ヲ中和均平ナラシムルガ如キハ、風ノ尤モ益アルモノナリ。若夫レ一旦怒號シ、樹ヲ拔キ、屋ヲ毀テ、人命ヲ損ヒ、船舶ヲ覆スニ至リテハ、風モ亦甚ダ畏ルベシトス。是レ空氣流動ノ疾徐ニヨリテ然ルナリ。即チ軟風ト呼ブアリ、輕風ト呼ブアリ、又強風ト呼ビ疾風ト呼ビ暴風ト呼ブガ如キ、其稱呼ハ種々ナレドモ、必

竟其速力ノ差等ヲ表スルニ過ギズ。而シテ其速力ノ最モ大ナルモノハ、一時間ニシテ能ク二三十里ヲ行クト云フ。風ノ最モ怖ルベキハ颶風ナリ。颶風ノ方向ハ南半球ニテハ時計ノ鍼ノ如ク右旋シ、北半球ニテハ之ニ反シテ左ニ旋リ、其速力ト勢力ノ非常ナルコト言語ニ絶シ、鐵艦ノ堅キモ、一タビ其衝ニ當レバ、壊破セザルコトナシト云フ。又風ノ渦ヲナシテ、陸ニ在テハ、砂礫樹木ヲ簸揚スルヲ旋風ト云ヒ、其海ニ在テハ、浪ヲ捲キ、天空ニ昇ルヲ俗

二龍卷ト云フ。

卷首ノ書ヲ看ヨ

風ヲトスルノ器械ヲ風雨鏡ト云フ。航海者ノ頼テ以テ危険ヲ避クルノ具ナリ。其製ハ長サ三尺許ナル玻璃管ノ、上口開キテ下塞リタルニ水銀ヲ盛り、之ヲ水銀槽中ニ倒立シ、管側ニハ度数ヲ記セルモノナリ。蓋シ管中ノ水銀ハ、管外ノ氣壓ニ支ヘラレ、大約二尺三寸以下ニ降ル能ハズ。是レ外氣ノ壓力、管中ノ水銀ノ重量ト相平均スルニ由ル。然レドモ空氣ノ稠密ナルニ從ヒ、其壓力強キヲ加フレバ、水銀ハ較昇騰シ、空氣稀薄トナ

レバ水銀較下降スルノ理ニ原ケルナリ。

風ハ常ニ空氣ノ稀薄ナル所ニ來リ起ルモノナレバ、其起ラントスルヤ、空氣必ズ輕クナリ、從テ水銀下降スルヲ以テ、乃チ之ヲ察シテ、豫メ風ノ起ラントスルヲ知ルベシ。此器又併セテ晴雨ヲトスルヲ得ベシ。蓋シ空氣ハ晴天ノ時ニ率子稠密ニシテ、陰雨ノ前ニハ、概シテ稀薄ナリ。故ニ亦水銀ノ昇降ヲ視テ、豫メ晴雨ヲ察スルヲ得。且夫レ空氣ハ、高キニ從テ次第ニ稀薄トナルガ故ニ、山ニ登ルニ風雨鏡ヲ携フルトキハ、亦水銀ノ昇

降ニヨリテ、略其山ノ高低ヲ測ルヲ得ベシ。

第三課 平重盛

治承元年、權大納言藤原成親、少將藤原成經、檢非違使平康賴等、太政入道平清盛ヲ怨ムルコトアリテ、密ニ法勝寺ノ執行俊寛ガ鹿ヶ谷ノ山莊ニ會シテ、之ヲ滅ボサンコトヲ謀リケルニ、其事早クモ洩レケレバ、清盛怒リテ成親等ヲ收ヘ置キ、猶後白河法皇ノ其事ニ加擔シタマヘリ。テ深ク之ヲ怨ミタテマツリ、多クノ兵ヲ催シ集メ、ミヅカラ甲ヲ被リ、長刀ヲ執リ、中門ノ廊ニ立チ出

デ、直ニ院ノ御所ナル法住寺殿ヘ寄セ奉ラントセリ。

此事密ニ其長子重盛ノ小松ノ第ニ告グル者アリケレバ、重盛急ギ平服ニテ車ニ乘リ、馳セ往キテ見ルニ、一門ノ公卿思ヒ々々ニ戎服シテ立チ騷ゲリ。重盛徐ニ入りテ、清盛ニ見エケレバ、清盛ハ我子ナガラ、流石ニ辱シクヤ思ヒケン、アワテ、鎧ノ上ニ法衣ヲトリ着テ、出デ會ヒ、事ノ仔細ヲ備サニ述ブルニ、重盛ハシバシハ言モ出ダサバリケルガ、良アリテ涙ヲ拂ヒテ申スヤウ、此仰

チ承ルニツキテ、御運ハハヤ末ニナリタリト存
 ゼラル、ナリ。人ノ運命ノ傾カントスル時ニハ、
 必ズ惡事ヲ思ヒ企ツトコソ傳ヘ候フ。御有様ヲ
 見奉ルニ、此ハ更ニ御心ヨリ出デタルコト、モ
 覺エ候ハズ。抑佛ノ説ニ、世ニ四恩アリト申スハ、
 天地ノ恩、國王ノ恩、父母ノ恩、衆生ノ恩ニテ、其中
 ニ最モ重キハ、朝恩ニコソアレ。普天ノ下王土ニ
 非ズトイフコトナク、率土ノ濱王臣ニ非ズトイ
 フコトナシ。サレバ如何ナル人モ、勅命ニハ背キ
 難シトコソ承リ候ヘ、況シテヤ父上ハ、祖先以來

我家ニ絶テ例シナキ、太政大臣ノ高位ニ陞リ給
 ヒ、重盛ガ如キ短才愚闇ノ身ニモ、大臣ノ職ヲ擔
 ヘリ。我家聊カ朝家ニ微功アレバトテ、遽ニ其賞
 ニ誇ルベキニ非ズ、此例シナキ朝恩ヲ忘レテ、猥
 リニ院ヲ怨ミ給ハンコト、冥罰恐シクコソ候ヘ。
 縱今君イカナル事ヲ思召立チタマフトモ、退テ
 事ノ由ヲ申シ聞カセ給ヒテ、君ノ御爲ニハ彌、忠
 勤ヲ盡シ、民ノ爲ニハ愈、撫育ヲ垂レ給ハ、神明
 加護アリテ、君モ思召シ直ス事ナドカ候ハガラ
 ン。今君ト臣トノ義ヲ、父ト子トノ親ニ比ブルニ、

寧口君ニ付キ奉ルコソ
 道ニカナフトコソ存ズ
 レ。古キ語ニ、王事ヲ以テ
 家事ヲ辭ス、家事ヲ以テ
 王事ヲ辭セズトモ承レ
 リ。況シテヤ此事善惡言
 ハズシテ著ルキヲヤ。重
 盛ニ於テハ御供仕リ難
 シ。カクテモ猶止リ給ハ
 ズバ、重盛ハ宗徒ノ者ド



モヲ率井テ、院ノ御所ヲ守護シ奉ラント存候。サ
 テモ重盛ノ身コソ、進退窮マリテ候へ、奉公ノ忠
 ヲ致サントスレバ、忽チ父ノ恩ヲ忘ル、ニ當リ、
 不孝ノ罪ヲ遁レントスレバ、不忠ノ逆臣トナル
 チ免レズ。申シ請フ所ハ、重盛ガ首ヲ刎ラレヨ。然
 ラバ院ニ迫ルノ御供ヲモ仕ル可ラズ。又院中ヲ
 モ守護シ奉ラジ。各、是ヲ聞カレヨト、カキクドキ、
 直衣ノ袖モシボルバカリニ泣キ悲マレケレバ、
 其坐ニ並居タル一門ノ人々、皆袖ヲ濕サヌハナ
 カリケリ。入道モ此諫ニヨリテ、遂ニ逆事ハ思ヒ

止リス。

サテ重盛ハ、中門ニ出デ、家人ドモニ向ヒ、汝等
此事ノ御供ナスニ於テハ、重盛ガ首ノ刎ラレタ
ランヲ見テ、後ニ仕レト戒メテ、小松ノ第二コソ
歸ラレケル。院モ此由ヲ聞シ召シテ、今ニ始メ又
事ナガラ、重盛ガ心ノ中コソ聞テ自ラハツカシ
ケレ。怨ヲバ恩ヲ以テ報イラレタリトゾノタマ
ヒケル。國ニ諫臣アレバ、其國必ズ安ク、家ニ諫子
アレバ、其家必ズ正シ。忠孝兩ナガラ全キハ、實ニ
此人ナリト、時ノ人感ゼヌハナカリケリ。

第四課 物價ノ高下

物價トハ、百貨ノ品位ナリ。絹布ノ價ハ、木綿ヨリ
高ク、金銀ノ位ハ、銅鐵ヨリモ貴シ。斯ク價ニ高下
ノ異ナル者ハ、抑、何ノ故ゾト考フルニ、畢竟求ム
ル人ノ多少ト、物品ノ多少トニヨリテ、此差アル
ナリ。即チ絹布ヲ求ムル人ハ、木綿ヲ求ムル者ヨ
リ多ク、又金銀ノ産出ハ、銅鐵ヨリモ少ナキガ故
ニ、其價格貴キナリ。
然レドモ人ノ求ムルモノ、其價必ズ貴キカ、渴ス
ルトキニ清水ヲ求メ、熱スルトキニ涼風ヲ欲ス

ル如キハ、其需用之ヨリ急ナルハナシ。然ルニ水ト風トハ固ヨリ價ナシ。産出少ナキモノ其價必ズ貴キカ、世ニ所謂天隕石ノ如キハ、其品誠ニ乏シケレドモ、未ダ必シモ貴カラズ。蓋シ物ハ、天然ノ價ト、勞力ノ價ト、相合シテ始メテ賣買ノ價格ヲ生ズルモノナリ。水ト風トハ、天然ノ價アルモ、造物主ノ無盡藏ナレバ、其産出常ニ夥シクシテ、勞力ノ價ヲ要セズ。天隕石ハ之ヲ得ルコト易カラザレドモ、以テ日用ノ具ト爲スニ足ラズ、又修飾ノ貴玉ニモ非ズ、唯頑然タル一塊物ニ過ギザ

レバ、天然ノ價少ク、奇人ニ非ザルヨリハ、之ヲ買ハントスルモノナカルベシ。是故ニ天然ノ價ト勞力ノ價ト、愈貴ケレバ、賣買ノ價モ、亦愈貴キニ至ルモノナリ。然レドモ天然ノ價ハ、造物主ノ恩惠ニシテ、人ノ作爲シタルモノニ非ズ。人ノ作爲スルモノハ、其物ヲ變容シ、若クハ之ヲ運搬スル爲メニ費シタル勞力ノ價ノミナレバ、物價ノ高低ハ、此勞力ノ多寡ニヨリテ定マルベシ。水ハ本來價ナケレドモ、都會ノ如キ清水ニ乏シキ地ハ、水ヲ買フコト

アリ、石炭ハ炭坑ニ在テハ價ナシ、之ヲ掘テ市邑ニ出セバ價アリ。是レ皆價ハ、勞力ニヨリテ生ズル明證ニ非ズヤ。

物ノ價ハ、勞力ノ價ナルコトハ、已ニ明ナリ。然ルニ勞力ノ價ニハ、種々ノ高低アリテ一様ナラズ。流汗終日僅ニ二三十錢ノ賃錢ヲ得ルニ止マル者アリ、又奔走ノ勞ナクシテ、多ク其俸ヲ受クル者アリ、是レ心ヲ勞スル者ト、力ヲ勞スル者トノ相違ナリ。心ヲ勞スルハ、其事難クシテ其人少ナク、力ヲ勞スルハ、其事易クシテ其人多シ。是レ其

賃錢ノ高下アル所以ナリ。又勞力中ニハ不健康ナルモノアリ、危険ナルモノアリ、或ハ汚穢ニシテ人ノ體面ヲ傷クルモノアリ。是等ノ勞力ハ、世人ノ嫌惡スル所ナルヲ以テ、其賃錢從テ貴シ。斯ク勞力ニハ種々ノ相違アリト雖モ、未ダ俄ニ何レヲ貴シトシ、何レヲ賤シトスベカラズ。世人舉テ學者官員タラシメンカ、誰アリテ衣食住ノ需用物ヲ作ル。之ヲ作ルモノナケレバ、學者議論ニ巧ナルモ、官員文簿ニ勤ムルモ、之ニ由テ衣食ノ生ズベキ理ナケレバ、世人ハ皆餓死スルニ至ル

ベシ。世間一人ノ心勞者ナキモ、人皆生活スルヲ得ベシ。一日力役者ナキトモハ、生活ヲ保ツコト能ハズ。故ニ心勞者ハ、常ニ力役者ニ養ハル、モ
ノニシテ、力役者ハ心勞者ノ生命ノ母ナリト尊敬シテ可ナリ。然ルニ世人率子學者官員タランヲ望ミテ、農工商タルヲ願ハズ、心勞者ヲ尊ビテ、力役者ヲ輕ンズ、甚ダ謂レナシ。滔々タル天下ノ勢是非ナシト雖モ、抑國家ノ爲メニ患フベキ事ナリ。然リト雖モ、今ノ力役者モ、亦過ナシトセズ。知識狭クシテ、財本乏シ。故ニ動モスレバ他人ニ

依頼スルコト多キニヨリ、往々世間ノ輕侮ヲ免レズ。故ニ力役者ハ、今ヨリ學問ニ志シテ、見聞ヲ廣メ、儉約ヲ專トシテ、資産ヲ作り、以テ鼓腹擊壤ノ歌ヲ唱ヘ、以テ獨立ノ精神ヲ逞ウスルニ至ラバ、豈ニ亦一夫愉快ナラズヤ。

第五課 植物ノ話

其二 葉

吾人ハ、葉ノ匾薄ニシテ圓キアリ、細長キアリ、縁邊ハ、或ハ平滑ニ、或ハ凹凸シ、或ハ鋸齒狀ヲ爲シ、且ツ其色ノ鮮綠ナルヲ見テ、毎ニ喜ブベク愛ス

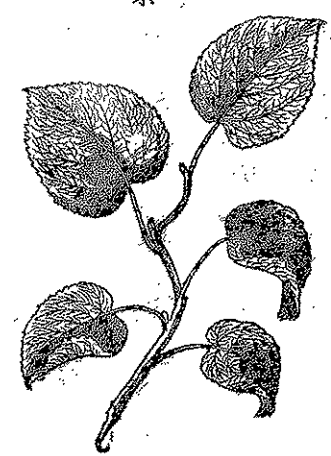
ベキヲ知ルナリ。

葉ハ枝幹ヨリ分レ出ヅルモノニシテ、其完全ナルモノハ、葉片、葉柄、托葉ノ三部ヨリ成ル、然レドモ托葉ヲ具ヘザルモノ甚ダ多ク、又往々葉柄ナクシテ、葉片直チニ枝幹ニ接スルモノアリ。

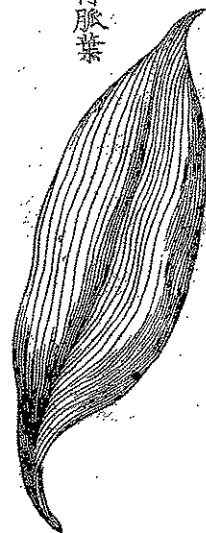
葉ハ其面ニ脈狀即チ骨格アリ、其排置ノ模様ニ由リ、之ヲ大別シテ二類ト爲ス。葡萄、櫻、櫻、櫻等ノ如キハ、其脈網狀ヲ爲ス、故ニ之ヲ網脈葉ト名ケ、米、



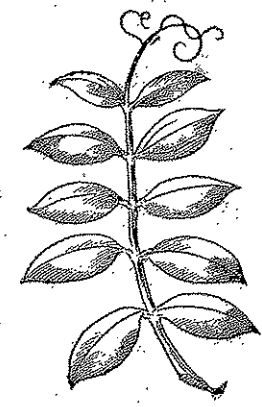
網脈葉



並行脈葉



複葉



麥、粟等ノ如キハ、其脈相並ビテ直行ス、故ニ之ヲ並行脈葉ト名ク。又葉ニハ單複ノ別アリテ、葉片一個ナルモノヲ單葉ト謂ヒ、二個ヨリ多キモノヲ複葉ト謂フ。梅、柳、槭等ノ如キハ、即チ單葉ニシテ、豌豆、紫藤等ノ如キハ、複葉ナリ。

葉ハ概子薄クシテ廣シ、薄ケレバ從テ其量輕シ。是レ樹木ノ、克ク多クノ小枝ニ其幾千萬枚ヲ負擔シテ、僵仆ニ耐フルヲ得ル所以ナリ。又其廣キガ故ニ、空氣ニ觸ル、ノ面大ナリ。是レ葉ノ掌レル作用ヲ遂グルニ合フ所以ナリ。蓋シ葉ノ職分トスル所ハ、空氣中ヨリ可及的多量ノ營養物ヲ收入スルニ在リ。

而シテ葉ノ之ヲ爲スノ方如何トイフニ、猶呼吸ノ作用ニ略異ナルコトナシ。即チ葉ノ表裏兩面ニ皮膜アリテ、殊ニ裏面ノ皮膜ニ夥多ノ小孔ヲ有シ、一葉中無慮幾百千ナルヲ知ラス。而シテ空氣ハ、實ニ此等ノ小孔ヨリシテ、葉ノ内部ニ入ルモノナリ。

空氣既ニ葉ノ内部ニ到レバ、其一分輒チ根ヨリ來ル所ノ汁液ト相合シテ、正ニ草木ノ滋養ヲ爲ス。葉ニハ柔靱ナル小莖アリテ、枝ニ固着スルガ故ニ、風ノ吹クニ當テ動蕩屈撓サル、モ、敢テ離レズ。其弱クシテ間、吹キ落サル、モノアルモ、其數少ナケレバ、敢テ植物ニ於テハ害ヲ受クル所ナ

キナリ。凡ソ圓クシテ太キ幹ハ、風ニ逢フモ搖撓サル、コト稀ニシテ、又圓キ強靱ノ枝ハ、摧折セラル、ニ至ラズ。而シテ根能ク常ニ其全體ヲ維持シテ、顛仆スルコトナカラシム。

第六課 馬援ノ訓誡

支那後漢ノ世ニ馬援ト云フ人アリ。其兄ノ子二人アリ、兄ヲ嚴ト曰ヒ、弟ヲ毅ト曰フ。俱ニ喜ミテ人ヲ譏議シ、常ニ任侠ノ客ニ交ハレリ。馬援之ヲ憂ヒ、交趾ニ在ル時ニ、書ヲ與ヘテ之ヲ誡メテ曰ク、吾汝ガ曹人ノ過失ヲ聞クコトハ、父母ノ名ヲ

聞クガ如クナランコトヲ欲ス、耳ニハ聞クベキモ、口ニハ言フコトヲ慎シムベキナリ。好ミテ人ノ長短ヲ議論シ、妄ニ政法ヲ是非スルハ、吾ハ甚ダ不可ナリトス。吾子孫ノ中ニ此ノ如キ行アルヲ聞クコトヲ願ハズ。龍伯高ハ、敦厚周慎ニシテ口ニ擇言ナク、謙約節儉公廉ニシテ威儀備ハリシ人ト聞ク。吾ハ平生之ヲ愛重セリ、汝ガ曹ノ之ニ倣ハンコトヲ願フ。杜季良ハ性豪俠ニシテ義ヲ好ミ、人ノ憂フルコトハ、己モ俱ニ憂ヒ、人ノ樂ミハ、己モ與ニ樂ミトシ、清濁失ク所ナク、父ノ喪

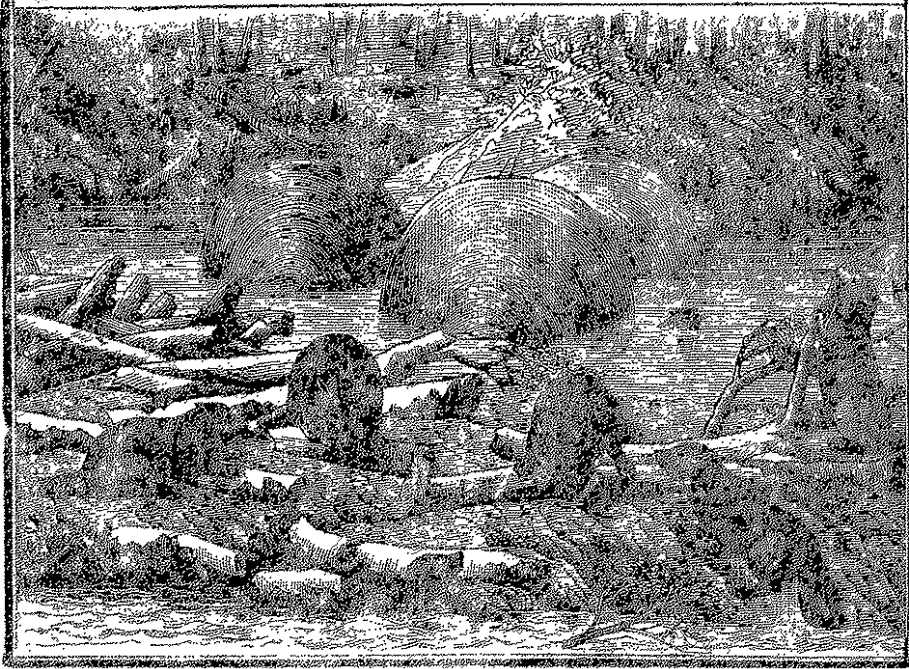
二客ヲ致セシニ、數郡畢ク至ルト傳フ。吾亦齊シク之ヲ愛重スレドモ、汝ガ曾ノ之ニ倣フコトヲ願ハズ、若シ伯高二倣ヒテ得ザルモ仍ホ謹教ノ士ト爲ルヲ失ハズ、譬ヘバ鶴ヲ刻ミテ成ラザルモ鷺ニ類スルヲ得ベシ。若シ季良ニ倣ヒテ得ザルトキハ、陷リテ天下ノ輕薄兒ト爲ラン。即チ虎ヲ畫キテ成ラザレバ、反リテ狗ニ類スルガ如キモノナリト。汝等能ク此等ノ言ヲ味ヒテ、世ノ輕薄者トナルコト勿レ。

第七課 海裡

海裡ハ、北亞米利加洲加拿佗地方及ビ亞細亞ノ北部ニ産ス。歐羅巴ニテモ亦稀ニ見ルコトアリ。人家ヨリ遠キ森林ノ中ヲ貫通スル水流中ニ、其巢ヲ造ルモノニシテ、諸子ハ茲ニ海裡ノ造リタル、三個ノ圓キ樓居ヲ看ルベシ。然レドモ其門戸ヲ覓ムルニ由ナカラン。是レ其常ニ深ク水中ニ潜ミ居ルヲ以テナリ。海裡ハ、水中ニ棲住スルニ適スルモノナリ。全身ニ二重ノ毛アリテ之ヲ被ヘリ。故ニ水流結デ氷ト爲ル時ニ當テモ、曾テ寒ヲ覺ユルコト無カル

ベシ。

海狸ノ後脚ハ其趾間ノ
皮膚恰モ蹠ヲ爲シテ水
ニ游泳スルニ便ナリ。又
其鱗ヲ以テ被ヒタル扁
平ナル尾ハ、舟ノ舵ノ如
ク、自由ニ之ヲ使用スル
ヲ得。故ニ海狸ハ水中ニ
在ルニ當テ、容易ニ方向
ヲ轉ジテ、進退スルナリ。



真実海狸

海狸ハ巢ヲ營ムニ先チ巧ニ自ラ其地ヲ相シ堤
ヲ造リ、水流ヲ壅滞シテ、深水ト爲シ得ベキ所ヲ
撰ブ。

海狸ニハ甚ダ長キ前齒アリテ、其尖頭銳利ナリ。
故ニ能ク物ヲ切ルコト、恰モ鑿ヲ以テスルガ如
シ。此銳利ナル齒ヲ以テ、毎ニ樹幹ノ下部ヲ齧ミ、
周圍ニ深溝ヲ穿チ、終ニ漸ク其中心ニ及ブナリ。
此際海狸ハ、暫ク其齧ムコトヲ弭
メ、樹ノ將ニ仆レントスルハ何レ
ノ方向ニ在ルヤヲ熟察スルノ状



アリ。

既ニシテ其仆ルベキ方向ヲ心ニ決スルトキハ、其反對ノ樹側ニ就テ、二三度深ク醫ムナリ。然スルトキハ、樹ハ遽カニ仆レ來ルト雖モ、海裡ハ既ニ反對ノ側ニ在テ、自ラ避クルガ爲メニ、少シモ其身ヲ損傷スルコトナシ。斯ノ如クシテ樹木ヲ仆シ、方ニ其用ニ充ルニ足ルト思惟スルトキハ、海裡ハ先ツ悉ク其皮ヲ剝ギ去リ、幹枝ヲ斷チテ四五尺ノ長サト爲ス。

斯ノ如ク準備シタル木材ヲ上流ニ投ジ、現ニ堰堤ヲ造ラント欲スル水流ノ處ニ輸送シ、用ヒテ一方ヲ塞ギ、泥石ヲ以テ之ヲ覆ヒ、水ヲシテ通ズルヲ得ザラシム。水ノ漸ク堤中ニ増加スルニ隨ヒ、益、其一方ニ木材ヲ積ミ、重ネ、水ノ其欲スル所ノ深サトナルニ至テ已ム。海裡ノ樓屋ハ、樹枝ヲ曲ゲ、之ニ泥ヲ厚ク被ヒテ造ル。每屋皆二室アリ、一ハ水外ニ在リ、一ハ水内ニ在リ。上室ノ濶サハ、恰モ三四ノ蓐床ヲ容ルベク、床ノ高サハ、室ノ周圍方ニ水面ニ出ヅルノ所ニ之ヲ設ク。

冬期ハ食ヲ求ムルノ外、巢ヲ出ヅルコト甚ダ稀ナリ。而シテ其常備ノ食ニハ、前ニ仆シタル樹木ノ皮ヲ以テ之ニ充ツ。此木皮ハ必ズ巢ノ門戸ニ近ク之ヲ貯フ。故ニ飢ウルトキハ、水ヨリ出ヅルヲ俟タズシテ、隨意ニ食ヲナスヲ得ルナリ。

第八課 課業問合セノ手紙

鈴木文吉ハ暑氣ニ冒サレテ、二週間許リ學校ヲ休ミシガ、漸次快クナリケレバ、明日ヨリ學校ニ出デントスレドモ、課業ノ何處マデ進ミタルカヲ知ラザルヲ以テ、手紙ヲ山田武之助ニ遣シテ

問ヒ合セタリ。

一筆申上作殘暑強ク凌兼作憂

益沛揃沛機煙克ニ為入奉恭賀作扱和病氣中
 の涉尋ね下され涉原情難有涉程申上は涉信
 を以て追々平愈し赴き作間作採涉安意下さ
 るべくを就てい明十三日より出校仕友を安
 續書科並し程科の何處まで進み居作裁分り
 並固入作下藝古をも較置交を習作此手教太
 所知りせ下され各偏に幸願作先の用事のみに
 早々以上

九月十二日

鈴木文吉

拜

山田武之助様

侍史

同返事

武之助ハ手紙ヲ受ケ取リテ直ニ左ノ如キ返事
ヲ遣シタリ。

滞多銭好兄仕立如仰殘暑去リがたく困入
尊兄此病尊進ニ由全快ニ由目出存察以明
日ハ弥出校ニ遊由テ讀書科理科更業

の場所訪尋ねの趣承知仕立明日之分ハ修立
科ハ高等科用普通簿本二編下等ハ孫忠怒の
道より理科ハ小学理科書卷之二二十九枚表
食物の消化より始リ作答ニ由産生先ハ返
事まで略者明の學校より返シテ話して中上
在事ニ於そ

九月十二日

山田武之助

再拜

鈴木文吉様

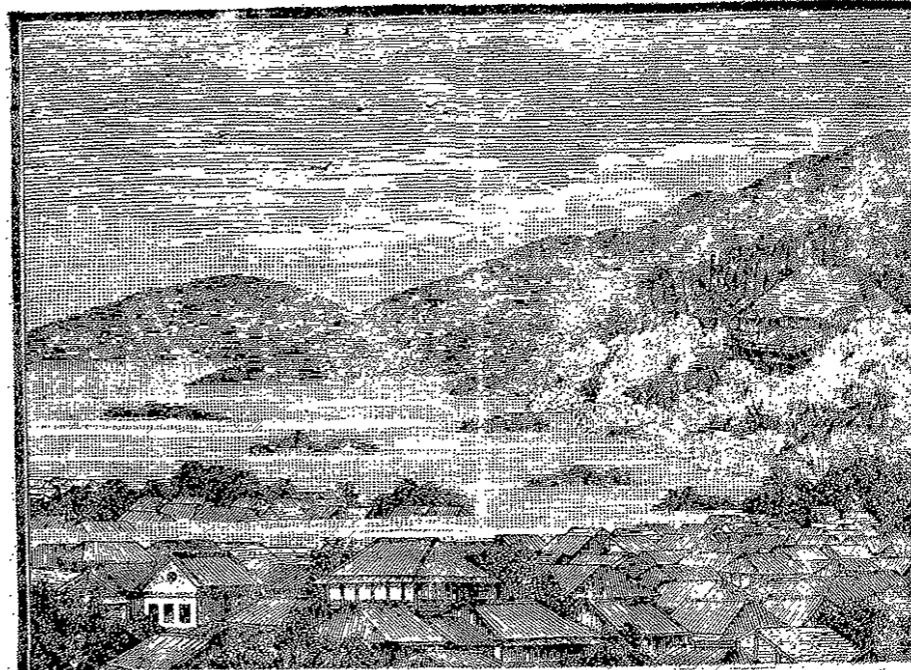
玉和下

汝等ハ右ノ例ニ倣ヒテ、學友或ハ親戚ノモノヘ諸事ヲ問合スル手紙及ビ其返書ヲ綴ルベシ。手紙ノ文ハ、通常ノ文體ト全ク異ナルモノナレバ、殊ニ能ク練習シテ、其身ニ不自由ナカラシムコトヲ務ムベシ。

第九課 京都

京都ハ東京ヲ距ルコト百三十一里餘ニシテ、畿内山城國ニ在リ。即チ三府ノ一ナリ。桓武天皇定鼎以降、歷世ノ帝都ナリシガ、明治元年都ヲ東京ニ遷シテヨリ、之ニ對シテ一ニ西京ト稱シ、宮室

尚巍然トシテ存ス。京都府廳ノ在ル處ニシテ、全府南北ニ長ク、之ヲ中分シテ上下兩區トス。街衢正整、家屋櫛比シ、人口大凡二十四萬、殊ニ東海、東山及ビ北陸諸道ノ要衝ニ當ルヲ以テ、常ニ繁昌ヲ極ム。其北隅ニ公園アリ、御苑ト稱ス。即チ舊皇居ノ在ル所ナリ。又府ノ西方ニ小城アリ、二條ノ城ト云フ。徳川幕府ノ築ク所ニシテ、當時京都所司代ノ治所タリ。都テ東ハ丘陵ニシテ、之ヲ東山ト稱シ、華頂山、祇園、清水寺アリ。西北ハ郊原ニシテ加茂ノ社、北野天満宮、金閣寺等アリ。大社巨刹



ノ多キコト海内ニ冠タ
 リ。又山水清雅ニシテ、就
 中嵐山ノ櫻、高雄山ノ紅
 葉ノ如キハ、春秋ニ其美
 ヲ競ヒテ、人ノ絶佳ト稱
 スル所ナリ。南ニハ東西
 本願寺アリ、共ニ建築壯
 宏ナリ。其他最モ名所古
 蹟ニ富メルヲ以テ、遠ク
 杖ヲ曳クモノ常ニ絶ユ

ルコトナシ。又西北隅ニ在ル一街ヲ西陣ト稱シ、
 精美ノ綾帛ヲ織出スヲ以テ、其名世ニ著シ、之ヲ
 西陣織ト稱ス。鐵道ハ、東本願寺ノ南ヨリ、東ハ大
 津ニ通ジ、西ハ大坂ヲ經テ、神戸ニ達ス。故ニ此地
 東北西ハ皆山ナレドモ、交通甚ダ便ナリ。

第十課 獅子ノ話

獅子ハ其性ノ獍猛ナルニ似ズ、時トシテハ甚ダ
 愛スベキ心情ヲ表ハスモノナリ。曾テ佛京巴里
 ノ動物園ニ飼養セシ牝牡ノ獅子アリ。監守人某
 ニ馴レシガ、一日某疾ニ罹リ、他人來テ之ニ代リ

シカバ獅子ハ甚ダ憂愁ノ有様ニテ、牝牡共ニ檻ノ一隅ニ屏退シ、之ニ食ヲ與フルモ敢テ食ハズ、強テ食ハシメントスレバ、吼號シテ更ニ動カズ、人以テ病ムトナシ、復タ之ニ近ヅカズ。已ニシテ其疾癒エ、來テ檻ノ柵間ヨリ面ヲ出セバ、牡獅先ヅ見テ、一躍シテ直チニ走セ近ヅキ、前脚ヲ以テ某ヲ擁シ、滿身ヲ聳動シテ喜悅ニ勝ヘザルノ情ヲ表ハセリ。牝獅モ亦來リテ、某ニ寄ラントセシニ、牡獅ハ敢テ之ヲ近ヅカシメズ、其意恰モ恩惠ヲ荷フハ獨リ吾ニ在リテ、汝ハ與カル可カラズ

ト云フモノ、如シ、爲メニ牝牡ノ間ニ、一場ノ紛争ヲ惹キ起サントスルノ勢アリ。因テ某ハ檻内ニ入り、懇ニ雙方ヲ慰解シ、爾後彌獅子ト相親昵シ、之ヲ愛育スルコト子ノ如クナリシカバ、獅子モ亦百事其命令ニ從ヒ、時ニ其惠ニ酬ユル意ニヤ、某ノ手ヲ舐ルコトヲ爲セリト云フ。又古昔羅馬帝國ニ於テ、罪人ヲ罰スルニ、野獸ト闘ハシメシコトアリ、嘗テ檻中ニ一大獅子ヲ養ヘリ。猛惡ノ狀觀ル者戰慄セザルハナシ。適一罪人ヲ出シテ相格セシメントセシニ、獅子ハ平素

ノ猙獰ニモ似ズ、欣然尾ヲ掉ヒ、狎レ近ヅキテ、其足ヲ舐レリ。罪人ハ既ニ死地ニ陥リ、心魂擾亂シテ戦キ居ケルニ、獅子ノ却テ己ニ媚ル色アルヲ見テ、大ニ訝リ、心ヲ靜メテ之ヲ諦視シ、始メテ其曩ニ恩ヲ與ヘタル者ナルコトヲ認識セリ。數千ノ觀者且ツ驚キ且ツ奇トシ、拍手喝采ノ聲暫ク止マズ。帝乃チ罪人ヲ召シ、其故ヲ問フ。答ヘテ曰ク、臣ハアンドロクレースト云フ者ニテ、本ト奴隸タリシガ、主人亞非利加ノ副領事タリシ時、從テ往キシモ、其虐使ニ堪ヘズ、逃レテリビノ大

砂漠ニ走レリ。時ニ炎熱燉クガ如クナリケレバ、一窟ノ陰ニ入り、霎時休息セシニ、一頭ノ獅子、氣息喘々トシテ馳セ來リ、窟中ニ入ル。臣之ヲ見テ、始メテ其巢窟タルヲ知りタレドモ、既ニ逃ル、ニ途ナク、身ヲ一隅ニ潜メテ命ニ任セシニ、獅子ハ臣ヲ害スルノ意ナク、一脚ヲ擡ゲテ臣ニ示シ、救ヲ乞フ者ニ似タリ。臣乃チ仔細ニ其脚ヲ檢スルニ、一大刺ノ肉中ニ止マルアリ。忽チ其意ヲ領シ、之ヲ抜キ去リ、肉ヲ壓シテ濃汁ヲ出シ、創面ヲ拂ヒ去リタレバ、獅子ハ愉悅ノ情ヲ顯ハシ、徐カ

二睡ニ就ケリ。爾後獅子ト共ニ起臥飲食スルコト三年、一日獅子ノ在ラザルヲ時トシテ、窟中ヲ去リ、行クコト三日、遂ニ復タ捉ヘラレテ、舊主ニ返サル。舊主怒テ臣ヲ此ニ送り、乃チ人獸格闘ノ刑ニ臨マシメシナリ。圖ラザリキ、彼ノ獅子ハ、則チ曩ノ窟中ノ獅子ナラントハト、仔細ニ口述セリ。衆之ヲ聞キ、其奇談ニ感ジ、皆聲ヲ齊シクシテ、アンドロクレースヲ赦シテ、自由ノ身トナサンコトヲ乞ヘリ。帝乃チ其罪ヲ宥メ、且ツ賜フニ獅子ヲ以テセリト云フ。

第十一課 身體ノ機關

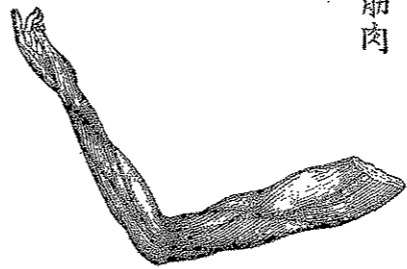
其二 筋肉及ビ皮膚

骨骼ノ外ハ筋肉皮膚ニテ包ム。筋肉ハ小纖維ノ相集リタルモノニシテ、其質軟ク色赤ク、自ラ能ク縮張シ、身體各處ノ運動ヲ司ルモノナリ。其種類各部同カラズ、其數四百餘アリ。短クシテ太キモアリ、長クシテ細キモアリ、或ハ濶大ナルモノアリ、或ハ扁薄ナルモノアリ。其作用モ隨テ異ナリト雖モ、悉ク皆身體ノ運轉援引扛舉ノ動力ヲ發スルモノナリ。其中手足ノ筋ノ如ク、意ノ欲ス

脚ノ筋肉



左臂ノ筋肉



ル所ニ隨テ動クモノアリ、之ヲ隨意筋ト曰フ。心臟ノ搏動ノ如ク、人意ニ拘ハラズシテ運動スルモノアリ、コレヲ不隨意筋ト曰フ。

皮膚ハ、内外二層ノ膜質ヨリ成リ、内層ヲ真皮ト云ヒ、外層ヲ表皮ト云フ。表皮ハ足蹠手掌ノ如ク、窄厚ナル處アレドモ、概子薄ク其質軟ニシテ彈

力アリ、血絡モナク神經モナケレバ、之ヲ刺スモ痛ヲ覺エズ、之ヲ截ルモ血ヲ出サズ。真皮ハ之ニ反シ、質固クシテ厚ク、血絡神經多ク散布スルヲ以テ、創傷スレバ必ず銳キ痛苦ヲ感ズベシ。凡ソ皮膚ノ用ハ、體中ノ老廢物ヲ排泄シ、蒸發ノ氣ヲ散ゼシムルニアリ。此作用ヲナス器ヲ汗腺ト曰フ、皮膚ノ中ニ散布シ、全身無數ノ小孔ヲ成スモノナリ。

汝等筋骨逞シク、力量人ニ勝レ、肥大健強ノ體軀タラント欲スルカ。若シ或ハ然ラバ宜ク適宜ノ

科用... 體操ヲ行ヒ、以テ筋肉ヲ鍛鍊スベシ。蓋シ運動ハ、
筋肉ニ血液ノ供給ヲ増シ、從テ其營養ヲ進メ、織
維ヲ強大ニシ、組織ヲ密ナラシムルノ功アレバ
ナリ。皮膚ノ發汗作用モ亦、大ニ身體ノ健康ニ關
係アルモノナレバ、衣服湯浴ニ注意シ、體中排泄
物ノ發散ヲ妨グベカラズ。衣服ハ主トシテ寒熱
ヲ防グニアリト雖モ、又蒸發氣ヲ吸收シテ、發汗
ヲ進ムルモノナリ。故ニ屢、衣服ヲ換ヘザルトキ
ハ、濕氣内ニ充満シテ、吸收ノ作用ヲ失ヒ、體中蒸
氣ノ閉塞ヲ起シテ、諸病ノ根原トナル又皮膚ニ

垢付クトキモ、之ヲ脱セザレバ、汗孔ヲ閉塞シ、遂
ニ頭痛寒冒等ノ患ヲ起スモノナリ。故ニ屢、湯浴
シテ、皮膚ヲ清潔ニスベキナリ。

第十二課 立志ノ方

人ハ其持スル所ノ主義ヲ高尚ニシ、其志ス所ノ
目的ヲ遠大ニシ、歩ヲ重子級ヲ積ミ、倦マズ厭カ
ズ、漸ヲ以テ大器ノ晚成ヲ心掛クベシ。微少ノ勢
力、瑣細ノ行爲ハ、始メハ遲緩ニシテ効ナキニ似
タリト雖モ、怠ラザレバ經久ノ後必ず大事ヲ成
スニ至ルモノナリ。故ニ古聖モ十有五ノ志學ニ

始マリ、三十二ニシテ立ち、四十二ニシテ惑ハザルニ至リタリト言ヒシニアラズヤ。然ルニ間、私慾ニ蔽ハレ、終身一事業ヲモ爲ス能ハザルモノアリ、豈悲シカラズヤ。宿儒柴邦彦ガ進學ノ喻アリ、曰ク、三月二十二日詰旦、輕裝シテ路ヲ東寺ノ南ニ取ル。暮春ノ天氣、風日和煦、加フルニ西山吉峯大士像ノ啓龕ヲ以テシ、都人士女相將テ行香セリ。興スル者、騎スル者、歩スル者、負フ者、抱ク者、路驛トシテ路ニ載ツ。吾レ獨行心孤ナルヲ以テ漫ニ路

人ト問語相勞シ、火ヲ乞ヒテ烟ヲ吹キ、菓ヲ分テ渴ヲ醫ス、行、相詆讒シテ、以テ自ラ慰ム。但予前途ノ遼遠ナルヲ以テ、心遽ク脚忙シ、近郊ノ遊人ト差池逍遙スル能ハズ。一人ト言ヒ未ダ了ラザルニ、又前者ト語ル、此ノ如クスル數人ノ後ニハ、初メ與ニ言ヒシ者ヲ顧レバ、既ニ數里ノ後ニ在リテ、復タ眉目ヲ辨ゼズ。半日ノ後ニハ、則チ山轉ジ林蔽ヒ、杳トシテ影響ダニ見エズ。吾レ思フ嚮ノ數人ト足ヲ擧ゲ歩ヲ進ムル、之ヲ一步ノ間ニ校レバ、其争フ所多シト雖モ、寸ヲ以テスル能ハズ。

唯數分ノ多キヲ積テ、漸ク進デ先ズルナリ。初メ其數十百歩ノ相前後スルヤ、便旋佇立ノ頃ニモ猶一蹶シテ及ブベキモ、半日ノ後ニハ復タ一蹶ノ庶幾ス可キニ非ズ。此ノ如クシテ十日ノ後ニ至レバ、輕車駿馬ト雖モ、將ニ企望ス可キ所ナカラントス。我レ羸弱ニシテ歩ニ難メリ、而シテ彼モ皆老幼婦女ニ非ズ。然リ而シテ、吾ノ能ク漸ク彼ニ先チテ進ム所以ノ者ハ何ゾヤ、此レ佗ナシ、彼ノ期スル所ハ數十里ノ内ニ在リ、故ニ其心急ルナリ。吾ノ期スル所ハ數百里ノ外ニ在リ、故ニ

其心勤ルナリ、我レ是ニ於テ學ノ方ヲ曉ル、請フ諸君數百里ノ外ニ期シテ、一步ノ功ヲ忽ニスル無クバ可ナリ。

第十三課 清正ノ虎獵

獅子ニ次デ勇猛ナル獸類ハ虎ナリ。虎ハ專ラ亞細亞諸州ノ森林郊野ニ産シ、就中印度ノ沼澤多キ地方ニ多シ。其體ハ獅子ヨリ稍小ク、頭ニ鬣ナシ。毛色赤棕ニシテ褐色ノ斑紋横ニ數帶ヲナシ、頗ル艶美ナルヲ以テ、大ニ人ノ珍重スル所タリ。虎ハ其力量較獅子ニ劣ルガ如クナレドモ、健捷

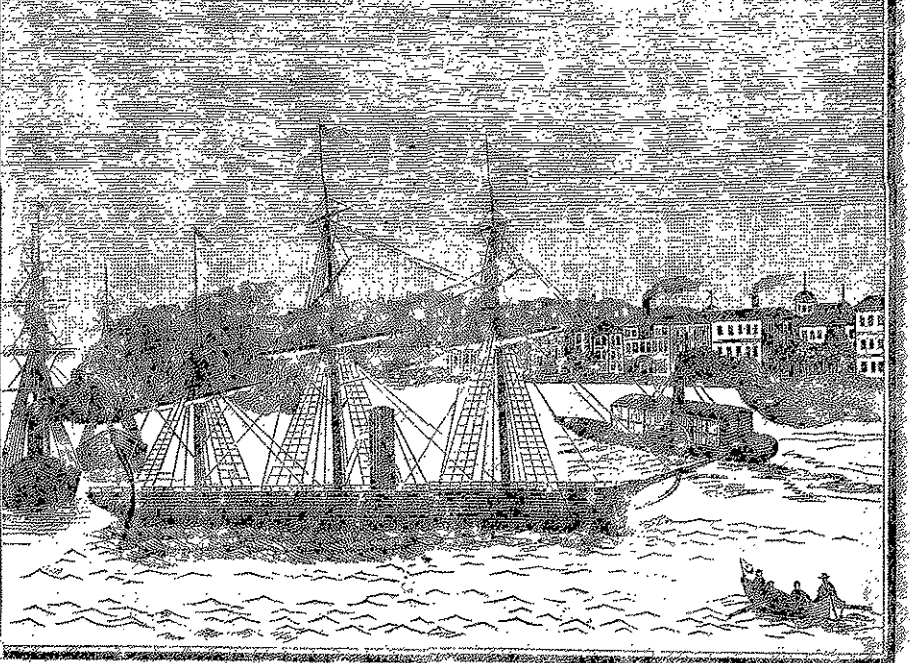
猛烈ナルコト殆ド之ニ過ギタリ。故ニ獅子ヲ畏
レズシテ能ク之ト角鬪シ、屢勝ツコトアリ。面貌
穉惡、一目シテ以テ其野性ヲ知ルニ足ル。咆吼ス
レバ聲森林ヲ鳴動シ、實ニ虎嘯ケバ風ヲ生ズル
ノ評ニ背カザルナリ。其餌食ヲ求ムルニ當リ、不
意ニ出デ、之ヲ一攫スルモ、若シ偶、之ヲ誤リ脱
シ、若クハ不慮ノ事ニ阻セラレテ、一舉ニ意ヲ得
ザレバ、輒チ捨テ、復タ顧ミズト云フ。

朝鮮國ニハ虎殊ニ多シ。豐太閤征韓ノ役ニ、加藤
清正ノ營、山麓ニアリシカバ、一夜虎來テ待登上
月左膳トイフ者ヲ噬ミ殺セリ。清正大ニ怒リ、天
明ニ至リ、其山ヲ圍ミテ虎獵ヲセシガ、偶、一大虎
アリ、茅葦ヲ排シテ跳リ出ツ。清正丘ニ踞リ砲ヲ
裝シテ之ヲ待ツ。虎怒リ眼ヲ張リ口ヲ開キ咆哮
シ來リテ櫻ラントス。衆爭ヒテ之ヲ銃セントセ
シニ、清正之ヲ止メテ曰ク、且ラク吾ガ技倆ヲ見
ヨト、言未ダ畢ラザルニ、轟彈一聲過タズ虎ノ口
ニ命中ス。虎ハ忽チ仆レテ又起キ、吼ル聲地ヲ動
カシ、終ニ輾轉シテ死セリトイフ。

第十四課 横濱

横濱港ハ五港ノ一二ニシテ、東京ヲ距ル西南八里
 餘ニ在リ。人口凡ソ六萬餘、神奈川縣廳ノ在ル處
 ニシテ、街衢縱横シ屋宇鱗次ス。安政六年始メテ
 開創シ、内外互市場トナセシ以來、頓ニ昌盛トナ
 リ、商旅輻湊、百貨雲集シ、實ニ方今我國第一ノ貿
 易所タリ。灣内水深クシテ、ヨク數多ノ大艦巨船
 ヲ碇泊ス。市街ハ灣ノ南岸ニ瀕シ、東ヲ本牧、石川
 トシ、西ヲ野毛、戸部トナス。南ハ岡巒相連リテ根
 岸ノ海濱ニ盡キ、北ハ海灣ヲ隔テ、神奈川驛ト
 相對シ、直徑僅ニ一里許、長堤ヲ築キテ鐵道ヲ通

ジ、櫻木町、高島町ニ貫ケ
 リ。外國人ノ居留地ハ市
 街ノ南半地及ビ其岡上
 ニ在リテ、石築鐵造ノ樓
 閣巍峩トシテ聳峙ス。停
 車場アリ、燈臺局アリ、港
 内ノ溝渠ニハ大率鐵橋
 石橋ヲ架シ、吉田橋ノ如
 キ其最モ大ナルモノト
 ス。又野毛山ニハ大神宮



科用年... 一編一
ヲ奉祠シ、伊勢山ト稱シ、全崗ヲ公園地トナス。又海上ヲ隔ツル南方七里ニシテ横須賀港アリ、廣大ナル造船所アリ、常ニ軍艦商船ノ製造ニ従事ス。

第十五課 空氣ノ事

空氣ハ酸素、窒素ト名クル二種ノ瓦斯ヨリ成ル。中ニモ酸素ハ劇猛ナル瓦斯ニシテ、萬物ト化合スルノ性甚ダ強ク、人ノ呼吸シテ生息スルモ、火ノ焰熱ヲ發シテ燃ユルモ、皆此酸素ノ功用ニシテ、又能ク動植物ヲ腐敗セシメ、若クハ金屬ヲ鏽

蝕セシムルモノナリ。酸素ノ性ハ既ニ劇猛ナルガ故ニ、斯ニ窒素ト名クル遲鈍ナル瓦斯アリテ、恰モコレニ混合シ、其性ヲ中和スルコト、猶燒酎ニ水ヲ和シテ、其性ヲ薄クスルガ如シ。

空氣ハ酸、窒二氣ノ外ニ、又多少ノ炭酸瓦斯ト水蒸氣トヲ含メリ。炭酸瓦斯ハ、多クハ動物ノ呼吸、炭火ノ燃燒等ニヨリ發スルモノニシテ、凡ソ動物呼吸スルトキハ、其發スル食物ノ炭素、正ニ空氣ノ酸素ト化合シテ炭酸ヲ生成シ、其親和作用ニヨリテ、體温ヲ發スルナリ。是實ニ炭火ノ燃燒

二比スベシ、即チ薪炭ノ炭素、酸素ト化合シテ炭酸トナリ、焔熱其際ニ起ルナリ。

炭酸瓦斯ハ、甚ダ人身ニ害アルモノナリ。然レバ稠人廣衆ノ中ニ於テ、往々眩暈頭痛ヲ起シ、又密閉セル室中ニ居テ、鬱陶トシテ元氣ノ閉ケザル如キモ、皆此瓦斯ノ多ク發生スルニヨレリ。夫ノ養生法ニ於テ、空氣ノ流通ヲ好クスベシト云ヒ、時々室外ヲ散歩シテ新鮮ナル空氣ヲ呼吸スベシト云フハ、實ニ之ガ爲メナリ。

地球上ノ動物ハ、其數限リナク、日夜酸素ヲ吸ヒ

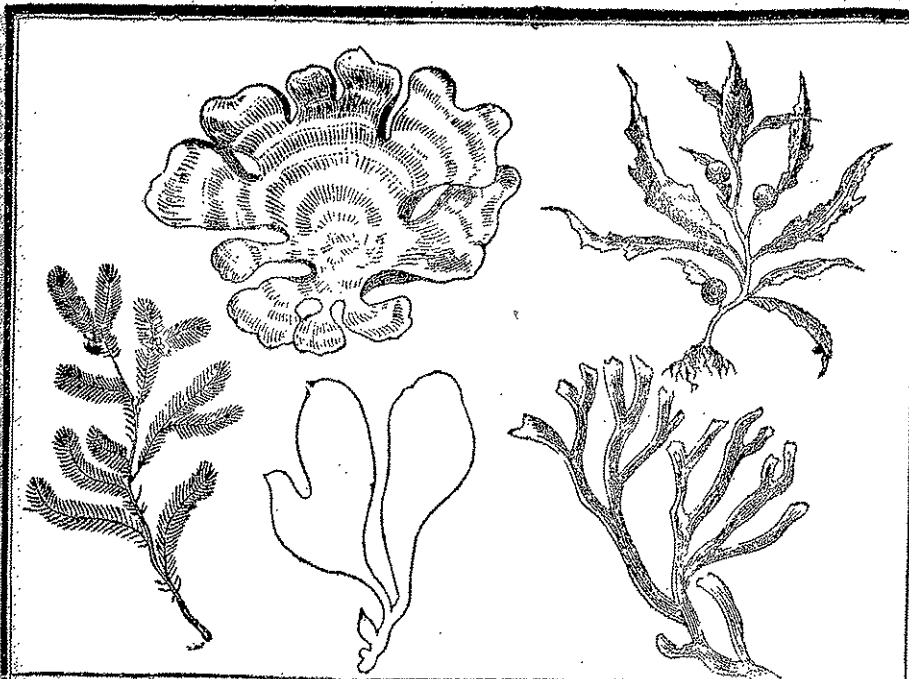
テ炭素ヲ吐キ、空氣ヲ汚スコト暫クモ間斷ナシ。空氣ノ分量如何ニ多ケレバトテ、遂ニハ炭酸瓦斯ヲ以テ充満シ、動物ハ舉テ窒死スベキ理ナリ。然ルニ開闢以來此慘狀アリシヲ聞カザルハ何ゾヤ。精シク其故ヲ釋ヌルニ、是別ニ不潔ノ空氣ヲ制シ、新鮮トスルモノアリテ然ルナリ。今其理由ヲ説キ示サン。抑、草木ハ、常ニ空氣中ノ炭酸ヲ吸ヒ、自己ノ綠色ノ葉ト日光ノ力トニ藉リテ、ヨク此炭酸ヲ分析シ、炭素ヲバ吸ヒテ自ラ其組織ニ變化シ、酸素ヲバ吐キテ之ヲ空氣中ニ還遊ス。

故ニ炭酸ハ動物ニハ害アルモ、植物ハ自ラ資テ其餌食トナシ、更ニ果實等ニ變ジテ、再ビ吾人ノ體中ニ還ルナリ。故ニ動植ニ物ノ生活ハ、常ニ相俟テ須臾モ離ルベカラザルモノトス。造化ノ配劑亦妙ナラズヤ。吾人ノ庭園ヲ設ケテ樹木ヲ植ウル所以モ、一ハ之ガ爲メナリ。

第十六課 海濱ノ話

海濱ニ逍遙スレバ、甚ダ爽快ヲ覺ユルモノナリ。春ノ暮、夏ノ初、風穩ニ波靜ニシテ、水天一碧睡ルガ如ク笑フガ如キ日、千潮ニ乘ジテ數友相伴ヒ

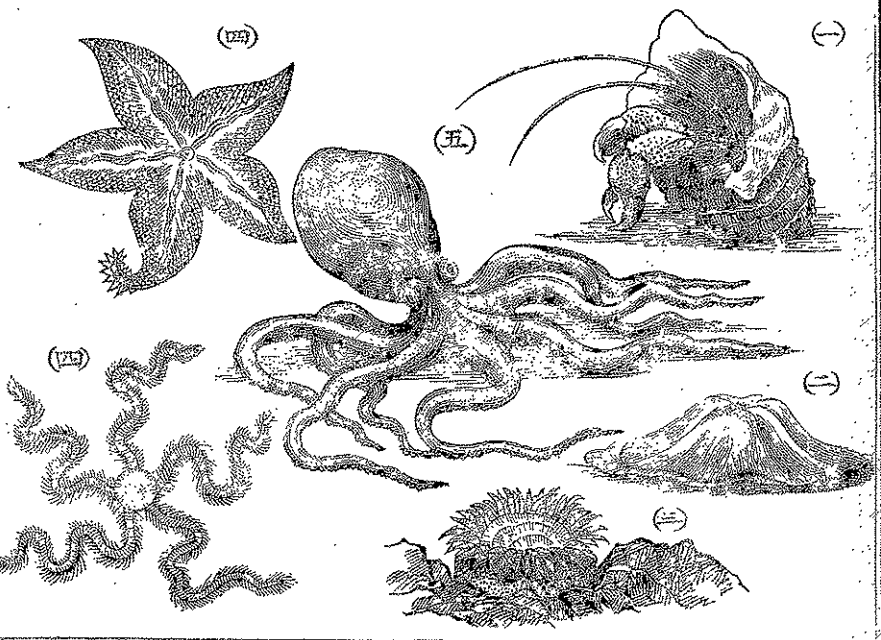
沙濱ヲ歩シテ、處々ノ海草、介類或ハ蟹蝦ノ類ヲ採捕スレバ、其樂實ニ言フ可カラザルナリ。又其岬灣ノ出入セル、崖巖ノ突兀タル、波濤ノ洋々タルヲ遊覽スレバ、精神ヲ怡バシムル者甚ダ多シ。故ニ平生都府市邑ニ在リテ職業ヲ勉ムル者、又ハ校舍ニアリテ學問ヲ勉ムル者ハ、時々海濱ニ遊歩セバ、攝生上ニ鴻益ヲ得ルコト多カラシ。此ニ畫キタル二三ノ海草ハ、何レノ海濱ニモ生ズル物ナリ。總ベテ海草ハ、全體細胞ヨリ成リテ、別ニ葉又花ナド云フベキモノナシ。果實ハ體ノ



各部ニ附着シテ生ズルモノアリ。海草ノ色ハ種々アリテ、蒼色、綠色、橄欖色、褐色等、其他猶多シ。海草ハ、巖石ニ據リテ發生スルモノアリ、水上ニ浮流スルモアリ、若シ此等ヲ採收シ、能ク其形狀ヲ整ヘ、紙間ニ夾ミテ之ヲ壓シ置クコト十數日ナ

ラバ、美麗ナル標本ヲ得ベシ。

此ニ示シタル諸動物モ、亦容易ニ採取スルコトヲ得ベシ。圖中(一)ハ寄生蟹ナリ。是ハ蟹鰓ノ種類ニシテ、腹部ニ硬殼ナシ、故ニ己レガ體ニ適セル他ノ空殼ヲ索メテ、之ニ住ス。此名アル所以ナリ。



(二)(三)ハ共ニ菟葵蓍ナリ、潮退ク時ハ(二)圖ノ如ク
 收縮シ、潮來レバ(三)圖ノ如ク鬚肢ヲ動カシテ餌
 食ヲ捕フ。(四)圖ハ海星又海盤車ト云ヒテ、各處皆
 之アリ、此類ニ陽遂、海燕等ノ諸種アリ。(五)圖ハ章
 魚ナリ、潮退ク時ハ、石間ニ潜匿スルコトアリ、故
 ニ之ヲ捕獲スルコト容易ナリ。

汝等若シ此等ノ動物ヲ捕獲セバ、宜シク火酒壺
 中ニ貯藏スベシ。又海盤車類ノ如キハ之ヲ乾固
 シ、能ク防腐劑ヲ施シテ永ク保存スベシ。他日動
 物學ヲ研究スルニ當リテ、此等ノ標品ハ、頗ル緊

要ナルモノナレバナリ。

第十七課 レギユラスノ義烈

レギユラスノ義烈ヲ以テ羅馬人ノ然諾ヲ重ン
 ジ、死ニ至テモ言ヲ食マザルノ氣慨アルヲ知ル
 ニ足レリ。レギユラスハ羅馬ノ一將軍タリ、數奇
 ニシテカーセーチト戰テ利アラズ、終ニ生擒セ
 ラレテ、其獄ニ繫カル、コト五年ノ久シキニ及
 ベリ。其間兩國ノ兵禍ハ尚ホ結デ解ケズ。カーセ
 ーチノ民終ニ久戰ニ疲レ倦ミ、即チ使節ヲ羅馬
 ニ遣シ和ヲ議セシメントシ、因テレギユラスヲ

シテ共ニ行カシム。發スルニ臨ミ、之ヲ要シテ羅馬若シ講和ヲ肯ンゼズンバ、再ヒ還テカーセーチノ獄ニ就カンコトヲ盟ハシム。カーセーチノ將帥等以爲ラク、羅馬ノ民素ヨリレギユラスノ賢ヲ重ンズ、其言ニ從ハンコト必セリ、レギユラス亦和成ル時ハ、自ラ復タカーセーチニ還ルヲ須ヒズ、永ク自由ノ身トナリテ、親戚朋友ノ間ニ從遊スルヲ得ルヲ以テ、必ズ其國人ニ勸メ、干戈ヲ弭メシムルコト疑ヲ容レズト。

レギユラスハ、既ニ久シク獄裏ニ呻吟シ、病患之

ニ加ハリテ憔悴殊ニ甚シ、敵將視テ其自由ヲ渴望スルノ念盛ナラント想察セシコト信ニ宜ナリ。然リト雖モレギユラスノ心ニハ、身ノ自由ヲ愛スルノ念モ切ナレドモ、更ニ之ヨリ急ナルモノアリ、即チ愛國ノ情是ナリ。且ツ今カーセーチ窮シテ講和ヲ欲スルノ時ニ當テ兵ヲ解クハ、羅馬ノ利ニアラザルコトヲ覺知セリ。故ニレギユラスハ、初ヨリ國人ニ説キ、之ヲシテカーセーチ使節ノ言ヲ容レザラシメント心ニ決シテ、羅馬ノ市門ニ達スルニ及ビテモ、自ラ入ルコトヲ肯

ハズ、先ヅ人ヲ遣ハシテ、議官ノ出テ來リテ己レノ陳明スル所ヲ聽カンコトヲ請ハシム。羅馬ノ當路者即チ出デ、レギユラスヲ見ル。レギユラス之ニ告グルニ、敵人戰ニ倦ミ兵ヲ弭メント希フノ意ヲ以テシ、其請ヲ容ル可カラザルノ旨ヲ言フ。曰ク、今敵創痍ニ苦ミ奔命ニ弊レ、復タ戰フコト能ハズ、幸ニ言ヲ用ヒテ和ヲ許スコト勿レト。議員曰ク、然リト雖モ將軍ヲ奈何セシレギユラス曰ク、予ヲ以テ念トナスコト莫レ、此回ノ事予若シ議ヲ協フ能ハズンバ、復タ還テ獄

ニ就カント約セリ。而シテ予實ニ義前言ヲ食ムヲ欲セズ、且ツ予歲既ニ老イタリ、餘命惜ムニ足ラズ、君輩努力シテ羅馬ノ爲メニ謀リ、其和ヲ聽クコトナカレ。羅馬人此義勇ノ人ヲ以テ、復タカーセーヂニ還シ、虎口ニ付スルニ忍ビズ、然レドモレギユラス固ク執テ聽カズ、且ツ其志ヲ挫カンコトヲ恐レテ、遂ニ妻子ヲモ見ルコトナシ。議官其動カスベカラザルヲ知り、使節ニ告ゲテ曰ク、カーセーヂノ墟ヲ觀ルニ非ズンバ、此戰以テ弭ムルコトナ

科用...
シト。

レギユラス乃チ約ニ背クコトナク、此答ヲ領シ、
敵使ト共ニカーセーヂニ還レリ。其民レギユラ
スガ和ヲ協フコトヲカメズ、却テ之ヲ妨ゲタル
ヲ聞キテ大ニ怒リ、遂ニ之ヲ慘刑ニ處シタリト
云フ。嗚呼レギユラスノ如キハ、身死スト雖モ其
言ヲ食マズ、信ヲ敵ニ守リ、義ヲ國ニ立ツ、豈ニ烈
丈夫ト謂ハザルベケンヤ。

高等
科用
普通讀本一編下終

社会科

明治二十年四月七日版權免許
同年五月出版
同年九月九日訂正再版御届
同二十二年八月二十五日參版御届

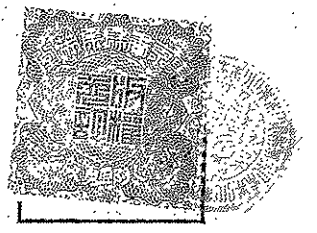
定價金十五錢

編者 東京府平民 高橋熊太郎

下谷區竹町一番地

出版人 東京府平民 小林八

日本橋區通旅籠町十一番也



明治20
40